

**大須賀乙字 俳人。新傾向俳句運動の口火を切り、碧梧桐中心の俳壇に影響を与えた。**

おおすがおつじ

**明治14年政変** 1881 = 福島県宇多郡中村町(相馬市中村)に生まる。父は漢学者(二高教授)大須賀箔軒。

**帝国憲法発布** 1889 = 8歳 :

帝国議会始・1890 = **9歳** :

**日清戦争始**・1894 = 13歳 :

安積中学を経て、

\_\_仙台一中在学中から乙字の号で句作を始め、

**Bushidou**・・1899 = **18歳** :

\_\_二高在学中、正岡子規にも会い、佐藤紅緑・佐々醒雪らの{奥羽百文会}で活躍。

東京帝大国文科入学後、

**日露戦争始**・1904 = 23歳 : \*河東碧梧桐選の{日本}俳句欄に投稿して、

**日露戦争終**・1905 = 24歳 : \*はやくも(東京日日新聞)の選者となり、

**アヲヱ** 創刊・1908 = **27歳** : 卒業。\*{アカネ}創刊号に「俳句界の新傾向」を發表、日本俳句に新動向のあることをいい、新傾向俳句運動の口火を切り、碧梧桐中心の俳壇に影響を与える。

**明治天皇没**・1912 = 31歳 :

\_\_碧梧桐が自然主義の影響から急進化するのを批判、二句一章論など俳譜本質論に特異な実りを見せ、大正に入ってから新傾向の無季・自由律を非難。他方、高浜虚子の{ホトトギス}にも批判を加える。この間、曹洞宗第一中学院、曹洞宗大学、東洋音楽学校、麹町女学校、東京音楽学校などの教師を歴任。

**ロシア革命**・1917 = **36歳** :

{石楠}{懸葵}{常磐木}などに拠ったが、

**ハルビン条約**・1919 = 38歳 : \*{石楠}を離れて孤立し、

大暴落・・・1920 = 39歳 : \_\_インフルエンザで没した。

没後、その句集が刊行された。